

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101751		
法人名	有限会社 コスモス		
事業所名	グループホーム コスモス苑		
所在地	〒030-0145 青森県青森市大字金浜字稲田111-1		
自己評価作成日	令和4年8月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コスモス苑は地域の伝統、文化を活用し地域の方々と共に活動し季節を感じ、心、安らかに暮らせるグループホームです。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年10月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の伝統文化である「ねぶた」を活用し、地域の方々と交流を深める努力を重ねている。職員は、日々の細やかな声掛けを大切にして、利用者やご家族にとって、よりよい支援ができるように努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コスモス苑の理念、目配り、気配り、思いやりを利用者、家族の思いを共有出来るように管理者職員は尊厳を尊重し、声掛けをしている。	理念は目につきやすいよう玄関に掲示している。管理者と職員は、毎月の合同ミーティングで理念に沿った支援ができていのかどうか振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二年前からコロナ禍による町内行事、役員総会など取りやめになっている為、交流は図られていない。	町内会の秋まつりやグループホームの夏祭り、NPOによる歌の会など、地域との交流はコロナ禍により取りやめとなっているが、近所を散歩する際は、近隣の方と声を掛け合う関係を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で包括、地域の催し物すべて開催されていない為、交流が図られていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も以前のような体制で行えなくなりました。ミーティングの議題に上げて職員皆で話し合い、内容を確認して、包括支援センターより指導や助言を頂いています。	コロナ禍により従前のような会議は行えていないが、職員の合同ミーティングで議題を設定し、話し合った内容を書面で伝え、所感を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	県、市よりの指導事項や連絡事項については、ミーティング時に全職員に伝えている。疑問な部分は、改めて市に伺いをして、間違えの無いようにしている。	支援困難なケースや職員の人員体制、グループホームへの苦情など、必要に応じて助言をいただくなど、日常的な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月開催のミーティングでDVD、や教科書により講習を行っている。また、マニュアル等などでも職員は学習している。	身体拘束防止に関する委員会を設置し、規程等を整備している。最近では身体拘束の実例はない。職員に対しては、毎月開催のミーティング等で、研修を行い、教本・冊子によっても周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等についても、DVD等により事例をみてもらい、何が悪いのか、良いのかを判断できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様家族より通帳を苑で管理していただきとの申し出があった際は、青年後見制度という制度があることを伝えて理解していただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、重要説明事項書を説明し、家族の理解と納得を頂いてから契約書にサイン捺印をして頂き契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者、苦情解決責任者を任命し家族からの苦情、要望等を汲み取れるように心掛けている。又苦情要望ボックスを玄関に設置し意見を反映できるようにしている。又契約時にも説明している。	契約時には、グループホーム以外にも意見などを表明できる旨説明している。また、苦情等を受け付けるボックスを設置しているほか、家族の面会時や電話連絡の際に声掛けをして意見を伺うよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日常的に会話ができるような雰囲気づくりを心掛けています。意見、提案等を話しやすく運営に反映させる事が出来ている。合同ミーティングや個人的にも意見を聞く機会を設けている。(まずはやってみる、だめと言わない姿勢を心掛けている)	管理者は、日々職員に声掛けをして職員の意見を汲み取っている。また、毎月のミーティングで意見交換を行い、組織運営や利用者支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	国家資格を取得した際は資格手当を支給している。働きながら資格取得しようとする場合は時間を調整し、資格を取得しやすい環境を整えている。又良い発想、良い行動をした時はMVP賞として、本人を称えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回全職員でミーティング時、議題に合わせたユーチューブの動画による研修を行っている。又協会で行う研修を受講するように名指しでお願いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により協会による催し物は中止となり、交流の機会ができなくなりました。ズームによる研修は参加しますが、交流までは、難しい状況です。収束を願うばかりです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来苑した際、電話での対応や入居希望者様の状況で利用者様がどの様な事で困っているのか本人の思いを傾聴するように心掛けている。申し込み記録を残し再度相談があった時に失礼のないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅より紹介があった際はアセスメントやケアマネから利用者の情報を集め家族が来苑した際は気になった部分を家族の気持ちをくみながら伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学で来苑された際、本人の状態や家族が抱えている環境を伺い利用者様にあったサービスが受けられる様、又選択出来る様アドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の要望、苦情等コミュニケーションを取りながら、傾聴し話題を共有している。利用者様の要望に対して、拒否や否定せず利用者様に寄り添い、安心した生活を送れるような環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族、利用者様の思いをくみとり家族利用者様の立場になり考えるように、信頼関係を築けるように努めている。現在は、リモートによる面会か、硝子越しによる面会になっているが、利用者様が耳が不自由な場合は補聴器などで、利用者様、家族が意思疎通が出来る様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際は写真や身の回りの馴染みの物を持って来て頂いている。利用者の友人が来苑した際はお茶と一緒に飲んで頂き安らぎの時間を共有していただいている。コロナ禍の現在は、硝子越しの面会になっている。	コロナ禍により、従前の関係継続の支援は限られているが、リモート面会を模索したり、毎月の利用料支払い時にガラス越しに面会していただくなど、できる限りの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に入り、会話をしたり、レク、おやつの時など、利用者様に声掛けをして、部屋にいらっしゃる利用者を食堂に来て頂き、利用者様がおやつを食べながら利用者同士が楽しく会話が多く出来るように環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院荷より退所した利用者様家族に代わり、支払い等、金銭管理を他の施設が決まるまで管理をし、退所となった利用者様の荷物を次の施設が決まるまで預かったりして支援をしている。又苑で暮らしていた時の様子を写真にして渡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には利用者様、家族の希望や意向について十分に聞き取りし、職員は達成できるように務めている。日々のコミュニケーションしながらでも思いや意向の把握に努めている。	入居時には、個々の生活歴などを聞き取り、本人や家族の意向に沿うよう配慮している。職員は日常的なかかわりの中で表情やしぐさを読み取るなど、意向を汲み取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族、医療関係より聞き得た情報や本人からも日々の会話の中から生活歴について情報を把握し記録として職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、排便、日々の会話、行動、表情から心身状態の変化を早期発見できるように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人、家族の要望等意見を意見を反映できるように務めると共に、課題を検討して計画を立てている。又利用者様の状態の変化が生じた時はプランの変更をして介護計画の見直しし職員に伝えている。	利用者個々の担当者が決められており、生活上の課題等を整理、報告して介護計画に反映できるようにしている。本人に確認できないことは、家族に相談して決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜を通じて日々の様子、気づき等ケース記録に記入し状況の変化に応じてケアの実践について見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴時と行事と重なった時は、行事を優先している。天気の良い日は外出し、利用者様の気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、町内行事は今年で3年中止となりました。外出も出来ない状況です。コロナが収束したなら以前の様に外出したいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて眼科、皮膚科、整形外科等への通院を家族の希望を大切に適切な医療を受けられるように務めている。家族が通院に行けない場合は、職員が通院に連れて行って、対処している。	原則かかりつけ医を受診できるようにしている。また、個々の症状に応じて専門医への通院支援を行ったり、協力医療機関を設けることで家族が安心できるよう努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診をして頂いてるので定期的に容態について相談し、適切な受診や治療を受け日常の健康管理に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から病院の相談員と情報交換し、退院に向けての連携が取れている。利用者様、家族が安心して治療を受けて頂く為、2ヶ月の余裕期間をもって退所の手続きをとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、医師、看護師の指示を仰ぎながら利用者様、家族に対して意向を傾聴し、出来る限りの支援を心掛けている。苑の方針は医師との連携により看取りをしている。	入居時には、重度化した場合に機械浴が無いなど、個別具体的な説明をしている。終末期に備えた研修や医療との連携など、できる限り家族や本人の要望に添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルに沿って職員は行動している。夜勤者は23時、1時、3時に異変が会った時は、管理者の携帯へ連絡をする事になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を定期的に行っている。又町内消防団に火災、災害の際は協力をお願い出来る体制を整えている。又災害計画書を危機管理課に提出している。	合同ミーティングのもと、定期的に防災訓練を行っている。訓練の際は、消防団が参加しているほか、有事には入居者の避難に協力していただくよう依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の尊厳を尊重するよう心掛け支援している。個人情報など守秘義務について十分理解し、ケース記録等個人情報等は事務室書庫に保管してプライバシーの保護に配慮している。	倫理規定やマニュアルにより職員間で個々を尊重した支援の方針を共有している。職員は、利用者個々の主体性を大切にして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リクリエーション参加、散歩等の際など強制はせず、本人の意思決定に任せ日常生活の中で利用者様の希望が叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然の散歩の要望や、天気の良い日は日常の流れはあるが、外出などを優先し、利用者様の一日の生活が楽しく過ごせて頂けるよう希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	苑に2ヶ月に1回床屋さんに来て頂き散髪を実施していた。コロナ禍の現在は無料で職員が散髪をしている。外出の際は本人が希望する洋服を着て気分転換をはかっている。衣服が汚れた際は、取り替えて頂き清潔保持に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に合わせて、刻みにして、提供している。パンが嫌いな利用者様にはご飯を別メニューを用意し、食べて頂いている。旬の物、季節感のある献立の作成を心掛けている。誕生日にはケーキを提供して、利用者様全員でお祝いしている。利用者様の状態により、血洗いや後片付け、テーブル拭きなどの手伝いをして頂いている。	個々の状況に合わせて、刻み食にするなど食事の工夫をしている。季節が感じられるよう献立を考えたり、山菜の時期には、家族からの差し入れをメニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々に合わせて10時はコーヒー3時はおやつとお茶、ココア、ジュースなどの提供をし水分量を確保できるようにしている。又おやつ時間外に飴やチョコレートなどを舐めてもらっている。月始めには、体重測定を実施し体調管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや口腔ケアによって清潔保持の為支援をしている。歯科の往診による義歯の調整を行い美味しく食事が出来るよう支援している。ポリドントによる、消毒も週1度している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を記録し個々の排泄パターンの把握に努めている。又事前誘導を行う事で失禁や汚染を防ぎ快適な生活を送れるよう支援している。通院に行く際は必ず下着やバットをチェックしている。又シーツは何度交換しても大丈夫のように支援をしている。	個々の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるように支援している。職員配置状況により支援が難しいことがあるため、申し送りなどで情報共有し、事前誘導できるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況、体重測定により、食事の量や質を工夫し提供している。又軽い運動で便秘が軽減できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴を実施している。入浴は決まっているが、希望に応じて変更して入浴できるように対応している。夏の汗ばむ日にはシャワー浴をしている。	週2回の入浴日は定めているが、個々の気分や体調、季節などに応じて柔軟に対応している。入浴日以外にも足浴を行い、清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思に任せているが、昼夜逆転しないように、日中運動やレクの時間を設けて夜間安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により処方された薬を個々の投薬について職員が把握して管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や得意なところを把握して軽作業、活動をとうして楽しみを引き出すよう役割意識をもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は苑庭や近場の散歩、萱野茶屋等へ外出している。家族との食事や外食会を行い普段と違った雰囲気の中で食事を楽しんでいただけるよう支援している。	コロナ禍前は、家族の協力を得て外出や泊りができていたが、そのような機会が減ったため、近所への散歩などにより気分転換できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理は出納帳に記入して領収書は別ノートに貼って、管理し家族が見ても分かるように管理している。買い物で外出の時は自由に買い物をして頂いて職員と一緒に支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様には自由に電話を掛けられる様に支援している。家族や友人からの手紙など、読んで内容を聞いて頂き、良かったね！と一緒に共感するように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誰もが利用できるようにソファ、テーブル、椅子等の配置に配慮し、車椅子も自由に移動出来るように工夫している。カーテンで日差しを防いだり、壁には行事で写した写真を展示したり、季節感や記憶を呼び戻す為の工夫をしている。	個々の利用者が心地よく安心感のある場所になるように家具の配置を工夫している。壁には季節ごとの装飾を施したり、行事の写真を飾って利用者が和めるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテレビがありソファに座ってビデオやテレビ鑑賞をしている。いつでも自由に気が合った利用者様同士がくつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に個々に利用者様が使い馴れた身近な物を使って頂くように持ってきていただいている。安心できる環境作りには配慮している。	入居時には、本人が使い慣れた物や思い出の品々を持ち込めるよう説明して本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の階段を利用してリハビリを兼ねて上り下りしている。又、廊下を利用して歩行練習を行っている。		